翻訳書籍
発売記念

独占インタビュー

マッシモ・ジョルジアンニ
Massimo Giorgianni

「内なるダンスのすすめ」
～半生を振り返って。

翻訳書籍の発売を記念して、都内でマッシモ・ジョルジアンニを独占取材。ダンスとの出会いから現役引退、そしてコーチとして活躍する現在まで、たっぷりと振り返っていただきました。

取材・文・写真／
神元誠（一部写真はマッシモ本人提供）

ダンスに引き込まれた瞬間

私は10才でダンスを始めました。当時、私が住む町に初めてダンスの学校が出来たのをきっかけに、学校の友達の両親が娘二人を連れて習いに行くことにしたのです。そこで、その両親が私の親に、私と兄を娘たちのパートナーとして一緒に習わせてくれないかと頼んだのが、私とダンスの出会いでした。

15歳のときにアレッシアと組んで踊るようになってから数カ月後には、イタリアの大会で優勝しました。当時のことですから、今の競技会のような規模やレベルではありません。でも、そのお陰で私達の先生が――当時50才か60才だったと思うけど――私たちを、ロンドンで行われているインターナショナル選手権に連れて行ってくれました。私たちにとって初めての世界大会でしたが、そこでジュニアのセミファイナルに残りました。その後どんどん素晴らしい成績をあげましたが、実はその時点ではまだ、私はそれほどダンスにのめり込んではいなかったのです。

その大会でプロの観戦をしていたとき、ファイナリストたちがステージから階段を下りてきたシーンを鮮明に覚えています。今はステージから下りてはきませんが、当時のロンドン・インターでは、楽団の傍の階段をファイナリストたちは下りてきたのです。それを見た瞬間、自分がやりたいのはこれだ、あのステージに立ちたいと、そのシーンに引きずり込まれるように感じながら強く思いました。それが私の心の中に大きな変革をもたらしたのです。

ターニング・ポイントはいつもブラックプール

最も記憶に残る大会は、やはり最初に優勝したオランダのスラグハーレンで開催されたダッチ・オープン（1995年）です。また、ブラックプールはいつも忘れられない思い出です。ブラックプールそのものは、どのダンサーにとっても思い出の場所に違いないでしょう。しかし、良い思い出となると、人によってはUKオープンかもしれませんし、ロンドン・インターかもしれません。しかし、ブラックプールは、なにかにつけ、私たちのキャリア向上の機会に深く結びついているのです。

例えば、アマチュアとしては'91年に入賞し、'95年には2位。'97年にターンプロしてすぐに、ライジング・スターで優勝できましたし、翌'98年には総合で18位、'99年にはタンゴで2位とクイックで3位を取ってファイナル入り（5位）しました。このように急速に良い成績を収め、私たちにとってのブラックプールは、常に向上するきっかけとなっていたのです。

当然、ブラックプールでの好成績が自信につながり、他の競技会でも同じように好成績を収めるようになりました。例えば、ブラックプールでファイナル入りした3か月後のジャーマン・オープンでは優勝しました。

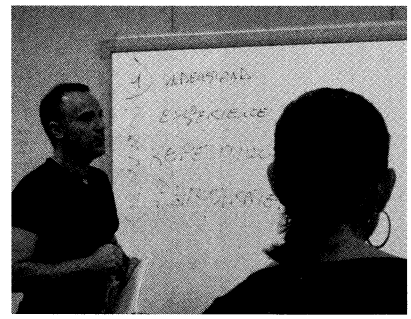
信念を貫いたタンゴ

「アービン・レガシー」（邦訳名

2013.4

マッシモが生まれた町、ヴィジェーヴァノ（Wikipediaより）

マッシモ&アレッシアのタンゴ・デモンストレーションの一幕。アルゼンチン・タンゴの要素を存分に取り入れた



ワークショップでは、ダンサーの能力を限界まで引き上げることを目指す

「ビル&ボビー・アービンのダンス・テクニック」）の中で、オリバーは私たちのことを「アルゼンチン系の踊りを競技会の形として使えるようにした」と書いてくださいましたが、私たちはアルゼンチン・タンゴも大好きで沢山踊っていましたから、アマチュア時代からそれを取り入れるようにしていました。全英選手権のライジング・スターで優勝した1997年、私たちはコングレス（World Ballroom Dancing Congress）でオリバーのレクチャーに招待され、タンゴを踊りました。そのとき彼は、「競技ダンスのタンゴのベーシック・テクニックと本物のアルゼンチン・タンゴを織り交ぜたショー」と紹介してくださいました。

私たちはもちろんボールルーム・ダンスが大好きですが、同時に、他のダンスからも多くを学ぶことができると信じています。すべてどこかで繋がっているからです。心をオープンにすると、そうしたものが見えてくるのです。私たちはアルゼンチン・タンゴの要素を沢山取り入れていたので、一部の人たちから歓迎されなかったことも確かです。競技会で勝ち残ることを考えると、何が良いか、何をすべきか、コーチャーとよく話し合い、折り合いをつけなくてはなりません。それでもなお、自分は何をしたいかを考えると、アルゼンチン・タンゴの要素は排除できませんでした。アルゼンチン・タンゴには濃密なコンタクト、繊細なタッチなどなどの素晴らしい雰囲気がありますから。

私たちは、また、当時のボールルーム・ダンスのタンゴはあまり発展していないと感じていましたので、自分たちが追及していることは間違っていないと確信していました。今振り返ると、私は、自分たちがタンゴの中に、単に見かけの形とかシェイプとかテクニークだけではなく、人間らしさとか男女の関わりと言ったものを吹き込んだと自負しています。ですから、自分達がしてきたことに対しては大きな誇りを持っています。当時のタンゴに、『人間らしさ』とか、更には、『自由』というものを表現の中に取り入れたのですから。

当時のタンゴに、『人間らしさ』や『自由』を取り入れた

未知の世界への扉

素晴らしい成績を残した現役時代に別れを告げ、現在は3人の子供がいます。子供ができるとダンスができなくなると考えるダンサーもいるでしょうが、私は以前から大家族を持ちたいと思っていました。子供は4～5人欲しいと。もちろん、現役時代は楽しかったですし幸せでしたが、人生を考えたとき、ずっと踊りだけでいくか、それとも、家族を持つか、その2つの選択肢の中で私は後者を選んだのです。今は子供たちがいて、とても幸せで満足しています。

かつては、周りの人たちが「子供って本当に素晴らしいですよ」と話していても実感がありませんでしたが、今このように子供を持ってみると、みんなが話していたことは本当だったと、しみじみ思います。子供は本当に素晴らしいです。信じられないかもしれませんが、子供たちからもらうものが沢山あります。毎日、毎日、想像がつかない程、色々なことを学びます。毎日が未知の世界への扉を開けるような感じなのです。子供たちのいない家庭は、もはや想像できません。

現時点では正直、アレッシアと二人でしっかり練習する時間はありませんが、現在、日本でデモをして欲しいとの非公式の打診を受けているので、もし正式に要請があったら、絶対お受けして踊りたいと思っています。しかし、当然のことながら、デモを引き受けてただ踊るという訳にはいきません。下手な踊りを見せて観客をがっかりさせたくはありませんから、しっかり時間を見つけ、みっちり練習し

ダンスのない人生は考えられない

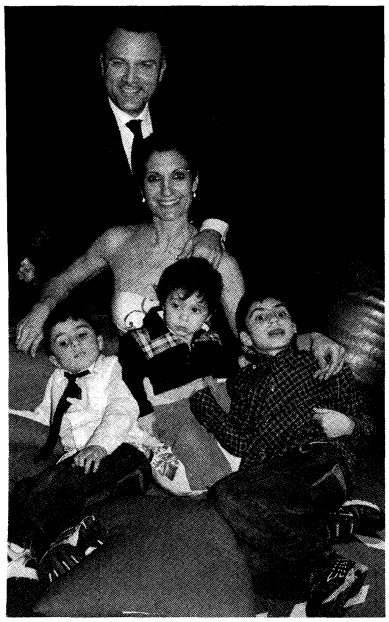
て身体を絞り、良い踊りをすることをお約束します。

ダンサーの能力を限界までひきだす

現在私たちはコーチしたり、ワークアズファイアのセミナーを企画・運営したり、イタリアでは教室で教えたりしています。また、イタリアのアマチュア・ダンス協会の技術アドバイザーを務めていますので、その中から世界的なダンサーが生まれて欲しいと頑張っています。他にも企業や個人向けのコーチングもしています。

昨年7月に東京で初めて開催されたワークアズファイアでは、参加者のほとんどがスタンダードのダンサーたちでしたが、イタリアでは多くのラテン・ダンサーも参加しています。このプログラムでは自分を自由に表現することや個人の可能性を引き出してベストの状態にすることなどを目標にしていますので、より多くのラテン・ダンサーたちにも参加して欲しいと思っています。また、このプログラムは競技選手だけを対象に考えていません。ダンス愛好家の人たちやコーチャーたちも参加してくだされば、このプログラムでどんどん成長していくことができるので、とても役に立つと思います。これからのダンスでは、今まで以上により多くの自由が求められるはずです。ですから、様々なダンスを含めてメンタル面や情緒面からのアプローチが必要になっていくでしょうし、そうしたことを一層深く理解することが大切だと思います。

私は日本で教えるのが自分の役に立っていると感じます。なぜかはわかりませんが、日本で教えていると、自分の考えが鮮明になり、何をすべきかが整理されていくのです。もしかするとそれは、日本人が大人しいからかもしれません。皆さん静かなので、私の頭が一層フル回転するのかもしれません。



3人の息子と一緒に。家族といる時間を大切にしている様子がうかがえる

内なるダンスがあることを知ってください

私は常に、自分が考えていること・感じていることを自分のために整理する習慣があります。現役時代でもそうでした。そうした考えを整理するためには、私の場合、書くという作業が大変役立っています。自分の頭の中はどうなっているのか、どんな考えを持っているか、実は頭の中ではまだ漠然とした考えが、書くことではっきりしてくるのです。この本は、現役だったころからすでに書き始めていましたが、ほとんどは引退してからです。しかし、書きたい内容については、すでに現役時代に色々考えていたので、アイディアは沢山ありました。

自分はとても好奇心の多い人間だと思っています。色々考え、色々勉強していく中で、実際にダンスを踊る以外に、自分の心の中で実に多くのことができるのだということが分かってきたのです。つまり、「内なるダンス」です。それを多くのダンサーに伝えたい、伝えなければとの思いで本にまとめました。ぜひ読んでください。

アレッシアと私はいいチーム

タンゴにアルゼンチン・タンゴの要素を入れようとしたときもそうですが、アレッシアには女性としての立場からすれば色々な思いがあったと思います。しかし、彼女は反対はしませんでした。イタリアには、男性は将来を見通す力があるという考えがあるので、私がこんなことをやりたいという計画を話すと、決して反対することはありません。この本についても、ワークアズファイアについても同じでした。彼女はいつでも、「OK、やりましょう。やりましょう」と賛成し、常に積極的にバックアップしてくれます。

今の私があるのはアレッシアのお陰です。アレッシアは日々のことに対してパーフェクトですし、私は長期的な物の見方をするのが得意なのです。持ちつ持たれつの良いチームだと思います。

私にとってボールルーム・ダンスはパートナーシップであり、音楽性であり、分かち合うこと。ダンスのない人生は考えられません。

マッシモ・ジョルジアンニ

イタリア人ダンサー。パートナーはアレッシア・マンフレディーニ。1997年UK選手権&全英選手権ライジングスター優勝、1999年ジャーマンオープン優勝、2001年全英選手権3位など（戦歴はいずれもスタンダード競技）。2003年イタリア選手権で優勝したのを機に引退。現在はダンス・コーチャー、コーチング、企業向けアドバイザーとしても活躍中。

絶賛発売中！！

世界で数々のタイトルを獲得したスタンダードダンサー、マッシモ・ジョルジアンニ著「DANCING BEYOND THE PHYSICALITY」（2010年発行）を日本語に完全翻訳。A5判、208ページ、税込2940円。2月26日（火）発売。

マッシモ・ジョルジアンニが教える
ダンサーのための メンタル・トレーニング
DANCING BEYOND THE PHYSICALITY

著／マッシモ・ジョルジアンニ
訳／神元誠・久子

ダンス界で唯一『メンタル』について書かれた名著「DANCING BEYOND THE PHYSICALITY」の日本語翻訳版が絶賛発売中です。マッシモ渾身の一冊は、あなたのダンスにきっと劇的な変化をもたらせてくれることでしょう。

元世界チャンピオンも推薦！

こんにちのフロア上では、大げさなシェイプとか体操のような動きが席巻していますので、マッシモがこの本の中で、芸術性を保ちつつも、いかにチャンピオンに到達できるかというアプローチの仕方を語っていることがとても嬉しいです。この本が読者の皆さんのダンスを、確実に次のレベルに引き上げてくれることは疑う余地がありません。なぜならマッシモとアレッシアで実証済みなのですから。

*要約抜粋

アンソニー・ハーレイ
（元世界スタンダードチャンピオン）

世界中で読まれているメンタル本の名著を翻訳

11月号から3月号まで、全5回の連載でお届けしてきた「DANCING BEYOND THE PHYSICALITY」。たくさんの読者の反響や後押しもあり、翻訳書籍として皆さんにお届けすることになりました。これまで連載を読んでこられた方たちには、『メンタル』がいかにダンスに重要なのか、しっかりと感じ取ってもらえていることと思います。

マッシモのこの本には、「どうやって（HOW）動くかではなく、なぜ（WHY）そうするのか」が全12章にわたり書かれています。いわゆるテクニック本ではありません。この手の内容はこれまでのダンス界にはなく、非常に価値のある一冊と言えます。あなたのダンスをより深く豊かにするためにも、ぜひ手にされてみてはいかがでしょうか。

考え方が変われば ダンスが変わる！

同書の購入方法&お問い合わせはP66を参照してください